

令和元年度版

小・中学校における 租税教育実践レポート



山形県租税教育推進協議会

は じ め に



「山形県租税教育推進協議会」は、租税教育をきわめて重要なものととらえ、昭和 55 年 2 月、他県に先駆けて東北で最初に設立されました。早いもので 40 年目を迎えることとなりました。長きにわたり、数々の事業を着実に実施させていただいておりますことは、関係機関の皆様方のお力添えの賜であり、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 23 年 11 月に、文部科学省・総務省・国税庁の協議により発足した「租税教育推進関係省庁等協議会（中央租推協）」においては、租税教育の充実に向けた基本方針等について、毎年、継続的に協議を重ねており、「小・中・高等学校における租税教育は、教育の現場、税の専門家及び各地域の税に関する民間団体等が連携・協働して、社会全体で取り組むべきもの」として合意・確認されているところです。

当協議会におきましても、従来から積極的に租税教育を推し進めてまいりました。

租税教育は、次代を担う子供たちが、財政や租税の意義・役割を正しく理解することで、社会の仕組みを知り、感謝の気持ちを育み、いずれは税を通して社会に貢献する意識を持った大人となる契機として必要なものであると認識しております。さらに、選挙権年齢の引下げに伴い、主権者教育の重要性も高まっており、財政の状況や現代社会の諸課題を知り、税金の使われ方について関心を高め、選挙を通して自分の意思を反映させるという主権者教育としてとても大切なことであると思っております。

また、当協議会の他県に誇れる特色ある事業として、昭和 58 年から実施しております「租税教育推進協力者の委嘱」があります。これは、各教育事務所から推薦をいただいた小・中学校の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税に関する授業の実践研究を行っていただき、その指導内容を「租税教育実践レポート」としてまとめていただくものです。これまで延べ 556 名の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税教育の実践研究に携わっていただきました。このことは、本県の教育機関にとって貴重な財産であり、租税教育の充実に大きく寄与しているものと確信しております。

本書は、令和元年度の協力者である 8 名の先生方が作成しました「租税教育実践レポート」を集約したものです。児童・生徒が税について主体的・対話的に学んだ授業実践が報告されており、租税教育の参考となる全国でも数少ない貴重な資料となりますので、是非活用していただきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、実践研究と執筆をお引き受けいただきました先生方に、心より感謝を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

令和 2 年 3 月

山形県租税教育推進協議会代表幹事

山形県教育委員会教育長

菅間 裕晃

目次

(順不同・敬称略)

1 小学校の部

・天童市立長岡小学校	教諭	石山 葉月	・・・・・・・・・・	1
・大江町立左沢小学校	教諭	板坂 朋憲	・・・・・・・・・・	2
・真室川町立真室川あさひ小学校	教諭	井上 幸治	・・・・・・・・・・	3
・長井市立長井小学校	教諭	村上 紀子	・・・・・・・・・・	4
・酒田市立広野小学校	教諭	長谷川 伸	・・・・・・・・・・	5

2 中学校の部

・山辺町立山辺中学校	教諭	武田 桂輔・穴山 真聖	・・・・・・・・・・	6
・県立東桜学館中学校	教諭	鈴木 誠	・・・・・・・・・・	7
・庄内町立立川中学校	教諭	久松 雄樹	・・・・・・・・・・	8

1 小学校の部

身の回りの税金と私たちの暮らし～これからの税金について考える～

天童市立長岡小学校教諭 6学年 石山 葉月
実施年月日：令和2年1月17日～31日 32名

1 実践計画・指導のねらい

今年度は消費税が10%に引き上げられ、児童にとって税を身近に感じる場面が多かったように思う。本実践では、国や県の税金の使われ方を理解したのちに、自分たちが住んでいる天童市では、税金をどのように使っているのかを知り、自分たちの生活と税金とのつながりを実感できるようにする。その後、人口減少・高齢化のグラフ、今後も社会保障費が増えていくことをもとに、自分たちの生活にも大きく関わっている税について、自分の考えをもてるようにする。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・租税教室を通して、税金について知る。	○ <u>税金とわたしたちの生活はどのようにつながっているのかな</u> ● 消費税を払っている。 ● この前、増税したよね。 ● （1億円のレプリカをもってみて）1億円ってこんなに重いんだね。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 〈租税教室〉税理士の山口さん
2	・前時で学習したことをもとに、税金の種類について知り、現在の国や山形県の税金の使われ方を知る。	○ <u>国や山形県は、税金をどのように使っているのかな</u> ● 国の社会保障費は、全体の3分の1を占めているね。 ● 山形県の税金の使い道は、教育費が一番だね。 ● こんなに教育費に税金を使っているなんて思ってたかった。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」 
3	・自分たちが生活している天童市では、どのように税金を使っているのか知り、自分の生活とのつながりを考える。	○ <u>天童市は税金をどんなことに使っているのかな。</u> ● ぼくたちが受験した、英語のテストも「英語教育推進事業」として、152万円も使われているんだね。 ● 二千局盤来のモニュメント、ぼくも参加したから名前が入ってるよ。1500万円も使っているんだね。 □使用教材名 天童市広報誌（2019年4月号） 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
4	・これまで学習したことを元、税に対する自分の考えをもつ。	○ <u>これまで学習したことをもとに、これからの税金に対する自分の考えをもとう。</u> ● 社会保障費は、これからますます高くなっていくことがわかりました。大人になったら、税金をしっかり納めたいです。 ● 自分たちが知らないところでたくさん税金が使われていることがわかりました。学校の施設も教科書も大切に使いたいです。 ● 今後、さらに消費税があがっていくことは国民の生活が苦しくなっていくと思います。だけど、社会保障費が増えていくことを考えると、とても難しい問題だと気付くことができました。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」 副教材「私たちの暮らしと税」（中学校社会科用学習資料）一部抜粋（「これからの社会と税について考えてみよう」のページ）

【指導のポイント】＜1時間目＞

税理士さんからお話を伺うことで、税金のおおよそや税金の役割、自分たちの生活とのつながりについて、理解することができた。「マリンとヤマト」のDVDは非常にわかりやすく、税金がなくなったら…と実感を伴って理解することができた。

【指導のポイント】＜2、3時間目＞

2、3時間目の授業については、国や県、市がそれぞれどんなことに税金を使っているのか、予想を立ててから資料を読み取った。特に山形県や天童市については、自分が参加した事業や、使ったことがある施設に税金が使われていることに気付いた。

また、県と国の予算については共通点について班ごとに話し合った。社会保障費や教育費に多くの予算が使われていること、借金を抱えていることなど、共通する点を見だし、日本の税金の課題について気付くことができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

これまで学習してきたことをもとに、税金に対する自分の考えをノートに記録した。これまでの授業の中で、「国の予算の3分の1が社会保障費に使われている」ということが大きな話題となったことから、人口減少・高齢化のグラフ（中学校用資料からの一部抜粋）を提示したことで、児童の理解がさらに深まり、将来の税金に対する意識が高まった。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 自分たちが住んでいる市町村の税の使われ方を教材とすることで、税を身近に感じ、「自分たちのために多くの税金が使われて、生活を支えてもらっているのだ。」と実感を伴って理解することができた。広報誌や議会だよりなどを資料として提示すると良い。
- ◎ 学習を始める前、児童は「税金は本当に必要なのか。」「大人になったらときに給料から引かれるなんていやだ。」と言っていた。しかし、学習が進むにつれて、税金が多くのかに使われていることに気付く、「大人になったら、しっかり税を納めたい。」という声が聞かれた。
- ◆ 「税」という幅広い事項を、小学校段階でどこまで学習すれば良いのか、判断が難しかった。
- ◆ 児童が自ら調べたり、家の人にインタビューしたりして、自らの行動によって学習が深まってくると、より一層興味・関心が高まると思った。

自分の意見を持ち、選択・判断できる児童の育成

大江町立左沢小学校教諭 6学年 板坂 朋憲

実施年月日：令和2年1月14日～31日 20名

1 実践計画・指導のねらい

税という言葉は聞いた事があるが、どのように集められ、どのように使われているのか等わかる児童は少ない。税金はどうして払う必要があるのか、税金を必要としているのはどんな場所、人なのかを考えることを通して、税金は私たちの暮らしを支え、重要な役割をしているということを理解し、さらには公助の働きがあることに気づいてほしい。この学習を通して、社会的な見方・考え方を働かせて自分の意見をしっかり持ち、選択・判断できる実践力を身に付けていきたい。それらを踏まえ、本単元では以下の3点の学習内容を考えた。①税金が私たちの暮らしを支えていることを知る。②消費税を例に、税金の必要性を考える。③税金の使い道について考える。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・大江町中央公民館「ぷくらす」がどのようにして建てられたかを知る。	○ 「ぷくらす」はどのようにして建てられたのだろう。 ● 町民の願いをもとに建てられたんだね。 ● すごい金額かかっているんだ。どうやってお金をあつめたんだろう。 ● 建設、管理、働く人に税金が使われているんだね。 □使用教材名 大江町町報平成26年9月号
2	・税金の集められ方や税金の使われ方について知る。	○ 税金がどのように集められ、どんなことに使われているか調べよう。 ● 消費税って知っているよ、去年10%になったよね。 ● 消費税減税率って最近聞くよね。 ● 公共施設や消防、ごみ処理にも税金が使われているんだね。 □使用教材名 教科書「新しい6年 下」
3	・租税教室を通して税に対して理解を深める。 【租税教室】	○ 税金がなくなったらどうなるだろう。 ● 道路やはしがこわれても直せないで、自由に移動できない。 ● 勉強するのにすごい大金がかかってしまう。 ● 一億円って重いんだね。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 一億円レプリカ
4	・消費税率10%（日本）と25%（スウェーデン）で税金がどう使われているか比較し、どちらがよいか議論する。	○ 消費税が10%と25%の2つの国を比較し話し合おう。 ● 消費税率25%は高額な買い物をするときたいへんだよ。教育や病院が無料になっても普段の買い物がたいへんだよ。 ● スウェーデンはみんなで支え合っているんじゃないかな。 ● 10%でも25%でも将来的に払うお金は合計すると同じくらいになるんじゃないかな。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
5	・税収等で得た国の予算100兆円を日本のために使うならどのような割合にするか考える。	○ 税金を日本のためにどのように使うか考えよう ● 教育にもっとお金をかけよう。 ● 社会保障費は20%必要だよ。 ● 毎年借金が増えているからもう少し高い割合にして返せるようにしよう。

【指導のポイント】＜1時間目＞

身近でよく使う公共施設が税金によって建設され、運営されていることを知り、税金に対する関心を高めた。

【指導のポイント】＜時間外＞

学級活動の中で税の絵葉書を描き税に対する親しみを持つことができた。

【指導のポイント】＜3時間目＞

租税教室を発展的、補助的に位置づけ、税に対する理解を深めるようにした。税金がもしなかったらと仮定して考えることで税金が生活に密接に関連していることを理解することができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

新学習指導要領6学年目標にある「考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」を実践した。日本とスウェーデンの消費税率と税の使い方を比較することを通して税に対する理解が深まった。

【指導のポイント】＜5時間目＞

新学習指導要領6学年目標にある「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う」を実践した。日本の税収を含む予算をどのように使っていくべきかグループで考え、円グラフに表した。議論しながら今の日本の実態に合わせて「日本のために適切に税金を使う」という社会的思考を働かせていた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 消費税率が10%と25%の国を比べ、議論した結果、児童の発言から税金は公共施設に使われるだけでなく公助の働きがあるということに気づいた児童がいた。
 - ◎ 税金の使い方を考えたことで、税金を適切に日本のために使おうという姿勢が見え、税金の必要感を生むことにつながった。
 - ◆ 租税教室を単元の前半に位置づけ、基礎的な内容を理解したうえで、授業で発展的な内容を扱うという単元構成も考えられた。
 - ◆ 調べ学習を通して児童自らまとめるような構成も考えられた。ただ、調べ学習に使う資料の選定が難しく、6年生に対応した教材・資料の開発が必要であると感じた。
- （その他）増税や軽減税率など税に関する変化のあった年だったので、イートインスペースを持つ店舗で働く方の工夫等インタビューできる機会を設けて広げるという方法も考えられる。

集められた税のその後を考える

真室川町立真室川あさひ小学校教諭 6学年 井上 幸治

実施年月日：令和2年1月30日 11名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちは、実際に自分たちも払っている消費税という言葉は身近でよく知っているが、今年度は税率が8%から10%に上がったこともあり、「たくさん払われている」というような印象も持っている。そこで、町税務係による租税教室や集められた消費税がどのように使われているのかを調べる活動を通して税の有用性を自分の生活と結びつけながら考えさせていく。また、教科書や各資料から、税の種類や多様性を知るとともに、集められた税金が自分たちの町ではどのように使われ、どのような町づくりをめざしているのかを調べることで、自分たちの暮らしと税の関わりについて身近なこととして考えさせていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・租税教室を通して、税のあらましについて知る。	○ <u>税金は、何のためにあるのでしょうか。</u> ● 税金がないと、警察や消防も有料になって困る。 ● 税金は、気付かないところでも自分たちの生活に役立っている。 □使用教材名 町民課税務係による租税教室 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 
2	・税金の種類や集められ方について調べる。	○ <u>税金は、どのように集められているのでしょうか。</u> ● いろいろな種類の税金があって、約50種類集められている。 ● 所得税は自分で納める税。消費税はお店がまとめて納めている。 ● 入湯税やゴルフ場利用税など面白い税もある。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」 教科書「新しい社会」（東京書籍）
3	・上がった税金がどんなところに使われているのかについて調べる。	○ <u>増えた2%の消費税は何に使われるのでしょうか。</u> ● 消費税は、国と地方で分けて使っている。 ● 増えた税で、幼稚園や保育所にお金を払わなくても通えるようになる。大学の授業料も減らすことができる。 ● 介護や年金、福祉にも使われる。 ● 2%は増えても納めることで、自分やみんなのためになる。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」 副教材「これからの日本のために財政を考える」（財務省）
4	・真室川町ではどのように税金が使われ、どんな町づくりをめざしているのかを考える。	○ <u>真室川町はどんな町づくりをめざしているのでしょうか。</u> ● 民生費が多く、福祉や子育てに力を入れた町づくりをしている。 ● 教育費も10%近くあって、教育にも力を入れた町づくりをしている。 去年からばくたちの学校の副教材費にも、税金が使われている。 ● 道路や防災など、安心して住みやすい町づくりをしている。 □使用教材名 真室川町広報 619号 625号 真室川町議会だより 148号 

【指導のポイント】＜1時間目＞

児童の税に対する興味関心を高めるため、導入として、町の税務係の方を招聘した租税教室を行った。税のあらましについてお話しいただき、ビデオの視聴を通して、税金がなくなるとどうなるかについて考え、税は自分たちの生活にとって大切なものと理解できた。

【指導のポイント】＜2時間目＞

教科書や「わたしたちの暮らしと税金」を活用し、税金の種類や集められ方について調べ、自分で納める直接税や店の人が預かってまとめて納める間接税があることに気付くことができた。

【指導のポイント】＜3時間目＞

今年度、消費税が8%から10%に上がったことから、その2%は何に使われるのかを資料を活用して調べた。教育や介護、福祉などに使われ、将来、自分たちにとっても大切なもので、税金は上がったとしても納めることは必要だと感じる事ができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

町の広報や議会だよりを資料として、真室川町の決算や予算のグラフを調べた。町の主要事業一覧も読み取りながら、どんな町づくりをめざしているのか考え、意見を交流した。議会だよりから税金の使い道について議会で話し合っていることも確認できた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 租税教室での外部講師のお話や増えた消費税の2%の使われ方を調べる活動を通して、児童の税金に対する興味関心が高まった。
- ◎ 広報や議会だよりなどを活用し、自分の住む町の税金の使われ方を調べていくことで、身近なこととして税金の有用性について捉えることができた。
- ◆ 2時間目に外国のソーダ税やポテトチップス税など紹介した際、児童は興味関心を持って聞いていたが、諸外国との税の種類や仕組みなどを調べて比較する活動も有効であると感じた。
- ◆ 今回は租税教室を実施したが、他にも議会の傍聴や役場の職員の方々へのインタビューなど各機関と連携した単元の計画もできればと感じた。

わたしたちのくらしと税金～なぜ税金は必要なのだろうか～

長井市立長井小学校教諭 6学年 村上 紀子

実施年月日：令和2年1月27日～2月4日 26名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちにとって、税金といえば「消費税」と答える児童がほとんどである。他にどんな税金の種類があるのか、なぜ税金を払わなければいけないのか、ほとんどの児童が知識としてもっていないのが現状であった。昨年10月に、消費税が8%から10%に上がった。なぜ、税金が引き上げられるのか、日本が抱える少子高齢化社会にも焦点を当て、税金の必要性や重要性について考えさせていきたい。また、18歳で選挙権をもつ児童が、政治や社会に関心をもち、自ら考え行動できるよう本単元を仕組んでいきたい。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・自分たちの生活をふり返り公共のものについて考える。	○ お金をかけずに自由に使える施設にはどんなものがあるのか？ ● 市立図書館 ● コミュニティーセンター ● 公園 ● 長井市の「まご〜れ」(子育て支援施設) ● どうしてお金がかからないの？ ● 税金とか補助金ということを聞いたことがあるよ。 □使用教材名 教科書「新しい社会 下」
2	・税金のビデオを見て、税金の必要性や重要性について考える。 	○ 税金とは、どのようなものなのだろうか？ ● 消費税は、聞いたことがある。買い物のときに払っているよ。 ● ビデオを見て、税金がないととんでもないことになることがわかった。 ● 税金がないと、町がゴミだらけになったり、消防車や救急車を呼んだりするのにもお金がかかってしまうんだね。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
3	・消費税のしくみを知り、税金の流れを理解する。	○ 消費税のしくみは、どうなっているのだろうか？ ● お店に消費税を払っていたけれど、その消費税を税務署に納めていることがわかった。 ● みんなの消費税を日本銀行で管理しているんだね。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 
4	・普段生活している学校の中で、どんなところに税金が使われているのか考える。	○ 学校で、どんなところに税金が使われているのだろうか？ ● 教室の机やいすにも税金が使われているんだね。 ● 教室のほとんどのものが税金で用意されたものだと思って驚いた。大事に使わないと。 ● ぼくたち小学生一人が6年間で使う税金が、約5,256,000円だと聞いて、かなり驚いた。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
5	・租税教室を通して、税金の種類やその使われ方を知る。 	○ 税金にはどんな種類があり、どのようなものに使われているのだろうか？ ● 税金には、こんなに種類があるなんて思わなかった。 ● 1億円(見本)がこんなに重いとは思わなかった。 ● 信号機・救急車・消防車・防災ヘリコプターにたくさんの税金が使われていることがわかった。 □使用教材名 租税教室(長井法人会)

【指導のポイント】≪1時間目≫

長井市の子育て支援施設と埼玉県川口市の子育て支援施設をデジタル教科書の動画などで視聴することによって、なぜ無料で運営できているのか、疑問をもつことができた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

税のビデオを視聴し、税の必要性や重要性を知ることができた。

【指導のポイント】≪3時間目≫

副教材「わたしたちのくらしと税金」を活用し、消費税についてくわしく学習した。消費税という名前は知っていたが、税の流れを知り、自分たちの生活と関わりがあることを実感できた。

【指導のポイント】≪4時間目≫

副教材「わたしたちのくらしと税金」を活用し、学校にも多くの税金が使われていることを知ることができた。学校を大事に使おうという意識も高まった。

【指導のポイント】≪5時間目≫

租税教室を通して、税金がないとわたしたちのくらしは成り立っていかないことを実感した。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

◎ 税金はわたしたちの生活を支える大切なものだと思え、税に対する肯定的なイメージをもつことができた。将来、国民の3大義務の1つである納税の義務を果たしたいという感想も出ていた。

◎ 租税教室や税のDVD、副教材「わたしたちのくらしと税金」などを活用することによって、税金について広く深く学習を進めることができた。

◆ 今回は、学校内だけでの学習になってしまったので、外部に出での学習にも発展させられればよかった。

◆ これからの税金はどうあるべきかなど、子どもたちに話し合わせることで、将来の社会への関わり方を考えるきっかけになるのではないかと考える。

くらしと税金のつながりをとらえる

酒田市立広野小学校教諭 6学年 長谷川 伸
実施年月日：令和元年12月23・25日 17名

1 実践計画・指導のねらい

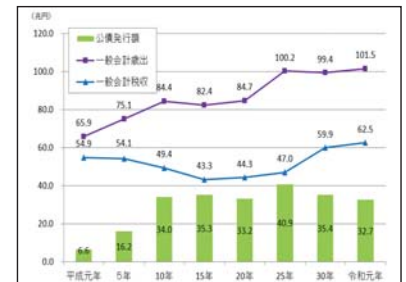
本実践は「震災復興の願いを実現する政治」の単元に位置づけ、「震災支援や復旧・復興に必要なお金はどのように用意したのか？」という疑問を切り口にした。子どもたちからは「税金を使った。」と声がすぐに上がったので、税金について知っていることをたずねた。すると、昨年10月に消費税率が上がったことを受けて、「消費税が10%になって値段が高くなった。」「どうして上げなければならなかったのか。」などの声上がり、税金への意識が高まっていることが分かったが、税金に対する正しい知識を持っている子どもは少なく、また、良いイメージをもっているとは言えない状況だった。本実践を通して、税金が自分たちの暮らしと深く関わっていることや暮らしを豊かにするために使われていることを理解し、子どもたち一人一人がこれからの税金に対する考えをしっかりと持つことができるようになることをねらいとして学習を構成した。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・税金の種類や使われ方などを知り、税金についての理解を深める。 	○ 税金にはどのようなものがあるか。 ● 「所得税」「住民税」「自動車税」など←直接税 ● 「消費税」「たばこ税」「酒税」「入湯税」など←間接税 ○ 税金はどのようなことに使われているか。（副教材を活用） ● 消防、救急、警察←安全を守るため ● 教科書、先生の給料、学校建築←教育を平等に受けるため ● 年金、予防接種、医療←健康に暮らすため ● 道路、信号、水道、ごみ処理←快適に暮らすため ○ <u>税金って何？</u> ● 税金はわたし達が暮らしていくために無くてはならないもの。 ● わたし達が安全に幸せに暮らすために必要なもの。 ● みんなで支払って、みんなのために大切に使われるもの。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 国税庁 HP 税の学習コーナー（学習・入門編）
2	・これからの税金について考える。 	○ なぜ、消費税率を上げなければならなかったのだろうか？（資料から日本の財政状況を読み取る活動） ● 国に必要な金額に対して税金だけでは足りない。 ● 高齢化や人口減少が続くと、税収が少なくなるのでは。 ● 外国には消費税率が日本より高い国がある。 ● 高齢者を支えるための若い世代の負担が大きくなっていく。 ○ <u>2050年までの消費税20%に賛成か、反対か？</u> ● 値段が高くなるけれど、日本が崩れないようにするために仕方がない。 ● 反対。生活が厳しくなり、物を買えなくなる。すると、消費税から入ってくる税金も増えないと思う。何かを楽にしてもらわないと反対。 □使用教材名 国税庁 HP 税の学習コーナー（学習・発展編・応用編） 日本経済新聞（2019年11月25日「日本の消費税 IMFが報告書」）

【指導のポイント】＜1時間目＞

学習の前時に、税金について家族に聞いてくる課題を課しておき、児童から税金の種類がたくさん出るようにした。そして児童から出た税金を「直接税」と「間接税」に分類する課程で、税金の仕組みを理解することができるようにした。



【指導のポイント】＜2時間目＞

単に消費税率の数字の上昇だけにとらわれないように、前時に学習した税金の役割や今後の日本の様子、世界との比較などの資料を提示し、判断の材料となるようにした。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 今回の実践を行う上で、国税庁のHPは大変有効だった。授業のねらいに適した資料が豊富で、授業づくりに大いに役立った。
- ◎ 児童は税金について、自分達の生活あらゆる場面で支えているもの、みんなで真剣に考えて行かなければならないものという認識を持つことができた。
- ◎ 租税教育は児童の身近なお金に関わる学習であり、児童が興味を持ちやすく、身近な題材を基に社会のしくみを学ぶことができる。この学習は、社会の形成者となるための価値判断や意思決定を身に付けるよい機会となると思う。
- ◆ 今回は、教師側が準備した資料と課題で知識を獲得し、考える授業を行った。これを課題追究型の授業にするには、授業時数を確保するための工夫と児童の実態に沿ったより深い教材研究が必要だ。

2 中学校の部

「公正」な税負担について考えよう

山辺町立山辺中学校 3学年 武田 桂輔・穴山 真聖

実施年月日：令和元年11月 27日

1 実践計画・指導のねらい

今回の授業を計画するにあたって、歳入や歳出項目の内容説明や、税金の種類や使われ方について学習した。理由として、単元のまとめに行う税の徴収のシミュレーションを行う際に、直接税・間接税の考え方や、国民が納める税金によって社会保障や公共サービスの充実が図られているという観点が必要だからである。

現代日本は少子高齢化が世界でも類を見ない程進んでいる。その中で生徒達は納税者として国民の生活を支える一端を担うことになる。それを踏まえた上で生徒達には「公正」な税負担について考える活動を通して、持続可能な社会を実現するための税金の重要性や税収の配分について自分なりの考えを持たせたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	財政の役割を理解する。	○ 『財政』とは具体的に何をすることか？ ● 『財政』とは国民から集めた税金をもとにして、国民生活に必要なサービスや社会資本を整備することである。 ⇒自分たちの生活を考えた時に、税金はとても大切であることが分かった。 □使用教材名 副教材「私たちの暮らしと税」
2	日本の社会保障制度について理解する。	○ 日本の社会保障制度について知ろう。 ● 日本の社会保障制度は4つの柱から構成されている。また、少子高齢化にともない、制度の改正もみられている。 □使用教材名 副教材「私たちの暮らしと税」
3 4	日本の社会保障制度の在り方について考える。	○ これからの日本は『高福祉・高負担』か『低福祉・低負担』か？ ● 『高福祉・高負担』…これからの日本は高齢化が進むため、社会全体で支え合うことが大切である。そのため、より手厚い社会保障が必要となってくるから。 ● 『低福祉・低負担』…これからの日本は高齢化が進み、このままでは現役世代の負担が増大する一方である。ある程度、自己負担を覚悟しなくてはならないと思う。
5	『公正』な税負担について考える。	○ 『公正』な税負担について考えよう。 ● 所得の多い人から多く税金を徴収しよう。 ● 社会保障費が増大したから、みんなである程度の額を負担しよう。 ○ 家族構成や性別などが設定された A～E さんから改めて、必要な税金を集めてみよう。 ● 年齢や家族構成によって減税したり、増税したりしてはどうか。 ● 『公正』という視点を考えた時に、誰からどのくらい徴収するかを慎重に考えなくてはならない。  □使用教材名 副教材「私たちの暮らしと税」 副教材「これからの日本のために財政を考える」（財務省）

【指導のポイント】＜1時間目＞

国の歳出・歳入のグラフから主な税の種類を把握させる。また、それらの税金が何に使われているか理解させる。

【指導のポイント】＜2時間目＞

社会保障制度のあらましを理解させた上で、少子高齢化に伴い介護保険制度や後期高齢者医療制度の内容についても理解を深めさせる。

【指導のポイント】＜3、4時間目＞

世界の社会保障制度の比較から、将来的に日本は『高福祉・高負担』か『低福祉・低負担』かを考えさせる。
また、クラスメイトとの意見交換をすることによって、多様な考え方にふれさせる。

【指導のポイント】＜5時間目＞

国民に必要な公共サービスを提供するために、年収のみを示した A～E の 5 名からいくらか徴収したらよいかをシミュレーションさせた後、クラスメイトと意見交換をさせた。
次に社会保障関係費の増大に伴い、さらに税収が必要になった場合を想定し、再度シミュレーションの後、意見交換をさせた。
最後に、A～E に【職業・家族構成・年齢・性別】の条件を加えグループで『公正』な税負担の在り方について考えさせた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

◎ DVDやインターネットの資料を活用することで、より具体的なイメージを持って「税」について学ぶことができた。

◎ どうしても他人事だった「財政」について、町づくりとの関連から身近な、かつ重要な課題としてとらえることができた。そこから、自分たちに将来的に関わってくるなどを考えることができた。身近な政治に関心を持つことができた生徒もいた。

◆ 社会保障制度について学習した際に、疑問に思ったりした点を自分で調べたりできればよかったが、ハードの面でも難しく、また時間的制約があつて十分でなく、主体的な活動を含む学習にできなかった。

◆ 夏休みの課題として税の作文を課しているが、事前に十分な学習ができない状況にある。単元計画を見直し、税に関する学習の時期や租税教室の利用も検討したい。しかし、授業時数の不足が課題である。

歴史から考える税金

山形県立東桜学館中学校教諭 1学年 鈴木 誠

実施年月日：令和元年12月 9 8 名

1 実践計画・指導のねらい

中学校では、3年の公民分野で租税学習を本格的に行う。歴史的分野でも税のことについて学習しているが、その時代を学習する際に少し触れる程度であり、系統的な学習はしていない。今の社会のシステムには必ず歴史がある。税の起源となる歴史に触れ、系統的に学ぶことで、3年での公民の学習がより深まると考えた。1学年では、室町までの歴史の学習を行った後に、税にスポットを当てた単元をつくり学習した。歴史を振り返ることで現代社会の税を見つめなおすことができるようにしたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
	課題：税の歴史から現代の税について考えよう。	
1	課題設定と情報収集・整理 室町時代までの歴史の中で、税に関することをピックアップして時系列に整理し、ロイロノートにまとめる。（グループ）	○ <u>原始から中世までの歴史で税に関することを調べ、整理しよう。</u> ● いつから税って始まっているのか？ ● 四大文明でも税ってあったのか？ ● 年貢と税の違いは？ ● 土倉や酒屋が幕府に払っていた税って何？ □使用教材 教科書「中学生の歴史」（帝国書院） 資料集「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） ロイロノート・スクール（LoiLo）
2	- 発表と情報整理・分析 調べたことをお互いに発信し、交流する。新しく得た情報を整理・分析する。（グループ） - まとめ・表現・振り返り 課題に対する自分の考えを書く。この単元の振り返りをする。（個） 	○ <u>調べたことをグループごとに発表しよう</u> ● 邪馬台国でも税があった。 ● 大化の改新から租庸調の制度を導入したが、実現するのにかなり時間がかかった。 ● 墾田永年私財法によって、税を納める対象が変わった。 ● 室町時代では土倉や酒屋は貨幣で税を払っていた。 ○ <u>課題に対して自分の考えを書こう。最後にこの単元の振り返りをしよう。</u> ● 税の目的や使われ方が時代によって違う。 ● 古代は支配者に対して納められていたのが、現在は国民のために政府が徴収している。 ● 室町時代以降の税の歴史も調べてみたい。 □使用教材 副教材「私たちの暮らしと税」 教科書「中学生の歴史」（帝国書院） 資料集「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） ロイロノート・スクール（LoiLo）

【指導のポイント】≪1時間目≫

今まで学習した内容をただ羅列するのではなく、難しい内容にも挑戦させる。税の対象者や使い方についても考えさせる。

【指導のポイント】≪2時間目≫

歴史と現代社会を比較することにより、今の税制度について深く思考できるようにする。この学習だけでなく、来年の学習に向けた展望をもつようにする。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ これまでの歴史の学習を違った方向から見ることで、社会を多角的・多面的に見ることができるようになった。起源や理由、目的や対象者などを調べること、税を深く知ることができた。
- ◎ 税の目的や使われ方を今と昔で比較することで、現代社会の税の意味を知ることができた。
- ◎ 税を調べると高校レベルの用語にも触れることになるので、中高一貫校としてこのような単元構成も必要であることがわかった。
- ◆ 来年度も同じように行わないとつながらない。歴史の学習終了後、税の歴史を扱うことができるように年間計画の中に入れていきたい。

税金から庄内町、そして日本のこれからを考える

庄内町立立川中学校教諭 3 学年 久松 雄樹

実施年月日：令和元年12月及び令和2年1月 30名

1 実践計画・指導のねらい

消費税の10%への増税に伴い、税金を身近に感じている生徒が多い。ただし、税金に対して「増税」「負担」などネガティブなイメージを持っている生徒も少なからずいる。税金が自分たちの生活にどのように関わっているのか、また総合的な学習で考えた『庄内町の魅力と今後』について、そこには財政も大きく関わってくるので、よりよい町づくり、ひいては国づくりにおける税金の重要性やあり方に気づかせたい。また、過疎化が進む庄内町においても安全・安心な生活のための社会保障の充実が重要課題であるため、自分事として考えさせたいと考えた。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・地方財政の仕組みと課題 庄内町など地方公共団体の実際の予算や税収、支出について知る。（12月）	○ <u>庄内町の財政について知ろう</u> ● 庄内町の財政規模を初めて知った。 ● どこも財政は厳しいと感じた。 ● 庄内町を活性化させていく必要があるし、そのためには住民の意志が重要だと思った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 広報 しょうない（2019年4月1日号 特集 庄内町予算編成と施政方針） 広報 私の街さかた（平成31年度酒田市予算特集 2019年4月1日） 広報 つるおか 特集号（平成31年度鶴岡市予算特集 2019年4月1日）
2 3	・私たちの生活と財政 税の必要性和税制度、政府の役割について知る。（1月）	○ <u>税の必要性について考えよう</u> ● 日常で当たり前と思っていたことが税金のおかげで成り立っていることを改めて知ることができた。 ● 税金の大切さ、ありがたさ、納めることの重要性がわかった。 ● 税金があることによって私たちの暮らしが豊かであると感じた。 ● 税金のない世の中ではさまざまな困ることがあると思った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 資料集「ビジュアル公民 2019」（とうほう） DVD「ご案内します アナザーワールドへ」 副教材「私たちの暮らしと税」
4	・社会保障の仕組み 日本の社会保障の現状について知る。（1月）	○ <u>社会保障の必要性和その仕組みを知ろう</u> ● 大人になると負担がどんどん出てくるので、自分でちゃんと考えたりしないといけないと思った。 ● 国債の発行額が多いため、その解消のための有効な手立てを考えないといけない。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 資料集「ビジュアル公民 2019」（とうほう） 副教材「私たちの暮らしと税」
5	・日本の社会保障のあり方と財政の課題 これからの日本の社会保障と財政のあり方を考える。（1月）	○ <u>これからの日本の社会保障の給付と負担について考えよう</u> ● これ以上の負担は苦しいが、せめて現状の社会保障を維持するための増税は仕方ない。 ● 例えば税負担が大きくとも、北欧のように将来安心して生活できるような社会保障制度にするべき。 ● 負担の増減は、効率と公正の視点を持って考える必要もある。 ● 自分たちは将来年金をもらえるのだろうか。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 資料集「ビジュアル公民 2019」（とうほう）

【指導のポイント】≪1時間目≫

庄内町の財政について、広報の資料を利用してどのような状況かを確認した。近隣の酒田市・鶴岡市の財政との比較も行い、地方自治体の抱える財政の問題について考えた。



【指導のポイント】≪2時間目≫

DVDを視聴し、税の必要性を考えた。また、税金の公平性について考え、累進課税制度についての理解を深めた。



【指導のポイント】≪4時間目≫

国家予算の資料を用いながら、少子高齢化が進む日本の抱える社会保障の課題を、実生活と照らし合わせながら考えることができた。

【指導のポイント】≪5時間目≫

日本のこれからの社会保障について、4つの立場を用意し、自分の考えに最も近いものを選び、クラスで意見交換を行った。意見は、自分なりのしっかりとした「理由」をつけて発表させた。自分と異なる考え方にも触れることができた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ DVDやインターネットの資料を活用することで、より具体的なイメージを持って「税」について学ぶことができた。
- ◎ どうしても他人事だった「財政」について、町づくりとの関連から身近な、かつ重要な課題としてとらえることができた。そこから、自分たちに将来的に関わってくることを考えることができた。身近な政治に関心を持つことができた生徒もいた。
- ◆ 社会保障制度について学習した際に、疑問に思ったりした点を自分で調べたりできればよかったが、ハードの面でも難しく、また時間的制約があつて十分できず、主体的な活動を含む学習にできなかった。
- ◆ 夏休みの課題として税の作文を課しているが、事前に十分な学習ができない状況にある。単元計画を見直し、税に関する学習の時期や租税教室の利用も検討したい。しかし、授業時数の不足が課題である。

山形県租税教育推進協議会名簿

令和元年7月 10 日

区 分		構 成 機 関	所 在 地	幹 事	
構 成 機 関 及 び 幹 事	教 育 関 係 者	山形県教育委員会	〒990-8570 山形市松波 2 丁目 8-1	教 育 長	菅 間 裕 晃
		山形県市町村 教育委員会協議会	〒990-8540 山形市旅籠町 2 丁目 3-25 山形市教育委員会内	会 長 山形市教育委員会教育長	荒 澤 賢 雄
		山形県市町村教育 委員会協議会教育長会	〒990-8540 山形市旅籠町 2 丁目 3-25 山形市教育委員会内	会 長 山形市教育委員会教育長	荒 澤 賢 雄
		山形県教育庁	〒990-8570 山形市松波 2 丁目 8-1	義務教育課長	竹 田 啓
				高校教育課長	片 桐 寛 英
		山形県連合小学校長会	〒990-0044 山形市木の実町 12-37 大手門パルズ内	会 長 山形市立第四小学校長	鈴 木 一 尋
		山形県中学校長会	〒990-0044 山形市木の実町 12-37 大手門パルズ内	会 長 山形市立第二中学校長	高 橋 政 吉
		山形県高等学校長会	〒991-8501 寒河江市西根字石川西 355 村山総合支庁西庁舎	会 長 山形県立山形東高等学校長	佐 藤 俊 一
		山形県 特別支援学校長会	〒990-0876 山形市行才 116 (山形養護学校内)	会 長 山形県立山形養護学校長	石 川 直 人
		山形県教育センター	〒994-0021 天童市大字山元字犬倉津 2515	所 長	坂 尾 聡
		山形県私立中学 高等学校協会	〒990-0023 山形市松波 4-6-11 山形県私学会館内	会 長 私立九里学園高等学校会長	九 里 廣 志
	税 務 関 係 者	山形税務署	〒990-8606 山形市大手町 1-23	署 長	進 藤 雄 幸
		山形財務事務所	〒990-0041 山形市緑町 2 丁目 15-3	所 長	近 野 司 郎
		山形県総務部税政課	〒990-8570 山形市松波 2 丁目 8-1	税 政 課 長	松 本 秀 樹
		山形県企画振興部 市町村課	〒990-8570 山形市松波 2 丁目 8-1	市町村課長	後 藤 崇 文
		山形県市長会	〒990-0023 山形市松波 4 丁目 1-15 自治会館内	会 長 東根市長	土 田 正 剛
		山形県の市を代表する 税務主管部	〒990-8540 山形市旅籠町 2 丁目 3-25	山形市財政部長	折 原 啓 司
		山形県町村会	〒990-0023 山形市松波 4 丁目 1-15 自治会館内	会 長 庄内町長	原 田 真 樹
		山形県の町村を 代表する税務主管課	〒990-0392 東村山郡山辺町緑ヶ丘 5	山辺町税務課長	長 岡 恒多夫
		山形県納税推進協議会	〒990-8570 山形市松波 2 丁目 8-1 山形県税政課内	会 長 山形県総務部税政課長	松 本 秀 樹
		東北税理士会 山形県支部連合会	〒990-0047 山形市旅籠町 1 丁目 12-51	会 長	高 橋 龍 二
		東北税理士会 山形支部	〒990-0047 山形市旅籠町 1 丁目 12-51	支 部 長	浦 山 善 太
		一般社団法人 山形県法人会連合会	〒990-0031 山形市十日町 1-2-30 Dグァフォート十日町ター-203	会 長	鈴 木 吉 徳
		公益社団法人 山形法人会	〒990-0031 山形市十日町 1-2-30 Dグァフォート十日町ター-203	会 長	鈴 木 吉 徳

専 門 部 会	部 会 名 等	所 属	氏 名 等	
	学校教育関係 部 会	山形県教育庁 義務教育課	指 導 主 事	佐 藤 文 明
		山形県教育庁 高校教育課	指 導 主 事	高 橋 実
		山形市教育委員会 学校教育課	指 導 主 事	三 浦 浩 子
	社会教育関係 部 会	山形県教育庁 文化財・生涯学習課 生涯学習振興室	室 長 補 佐	大 築 誠
	研 究 部 会	山形県教育センター	副 所 長	櫻 井 順 一
		山形県教育庁 義務教育課	課 長 補 佐	佐 藤 元
	税務関係者	山形財務事務所	総 務 課 長	廣 田 英 土
			企 画 係 長	木 村 裕
		山形県 総務部 税政課	主 査	板 垣 和 幸
			主 事	太 田 孔 悦
		山形市 財政部 市民税課	課 長 補 佐	奥 山 敏 行
		東北税理士会山形支部 租税教育部	部 長	福 原 茂 統
		山形税務署	副 署 長	佐 藤 誠
			税務広報広聴官	阿 部 里 美
			税務広報広聴官	安 彦 有 希

聞いてみよう 税の話。

租税教室のご案内

学校で開催する租税教室の講師派遣、児童・生徒さんによる税務署見学、租税に関する資料（DVD等）の貸出しなどのご要望は、最寄りの税務署の総務課までご連絡ください。

山形県内税務署

山形税務署	(023) 622-1611
米沢税務署	(0238) 22-6320
鶴岡税務署	(0235) 22-1401
酒田税務署	(0234) 33-1450
新庄税務署	(0233) 22-5111
寒河江税務署	(0237) 86-2244
村山税務署	(0237) 53-2151
長井税務署	(0238) 84-1810

租税教育関係ホームページ

国税庁HP「税の学習コーナー」・・・[国税庁](#) で検索してください。

山形県税政課HP・・・・・・・・・・・・・[山形県税政課](#) で検索してください。

令和2年3月発行

発行者 山形県租税教育推進協議会

事務局：山形市大手町1-23（山形税務署内 税務広報広聴官）
(023) 622-0788